

## 投資事業評価調書（新規）

部課室名	農林水産部農林水産局 農村環境課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 青野 正 (小川 至紀)	内線	3931 (3946)
------	---------------------	---------------------	--------------------	----	----------------

事業種目	中山間地域振興対策	事業名	事業区間	総事業費	約3億円
		新山村振興等農林漁業特別対策事業	相生地区	内用地補償費	—
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年 度	完成予定 年 度
相生市矢野・若狭野地内			H15	H15	H18
事業の目的			事業内容		
<p>中山間地域の特性を踏まえつつ、地域農業の振興や都市との交流、定住条件の整備を総合的に振興することにより、活力ある地域づくりを推進する。特に本地区は、従来からの取り組みである特産品開発の一層の推進と需要拡大を図るとともに、自然環境を活かした都市部の子供等との交流促進や農林業体験を通じた地域の活性化を図る。</p> <p style="text-align: center;">事業主体：相生市</p>			<p>子供等自然環境知識習得施設(交流体験施設) 1棟 1,026 m<sup>2</sup> (国 50% 県 4% 市 46%)</p> <p>農林水産物処理加工・直売・食材供給施設 (特産品等加工販売提供施設) 1棟 250 m<sup>2</sup> (国 50% 県 8% 市 42%)</p>		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	<p>市の北部にある矢野・若狭野地区は、「相生市新総合計画」(H13年度)において、豊かな緑と国史跡感状山城跡や羅漢の里などの史跡を生かした子供等の多様な世代の交流拠点施設の整備を位置づけ、自然環境教育や歴史学習の場としての活用とともに、農業体験等を通じた地域と都市住民との交流を図ることとしている。このため、小学校跡地を活用した「子供等自然環境知識習得施設」(仮称「ふるさと交流館」)の整備により、地域の資源と人材を活用し、地域住民参画のもと、都市との交流を推進し、地域の活性化を図ることを計画している。</p> <p>また、この地域は、これまで特産品であるユズ・メロン・大豆・いちご等の生産とともに、それらを利用した加工・直売のグループも育ちつつあり、農業振興や雇用の創出、女性や高齢者の生きがい発揮等に寄与している。しかし、新たな特産品の開発や周年供給体制の確立、消費者ニーズの把握等のためには、グループ間の連携の下、それらの活動の拠点となる施設が必要である。</p> <p>これらの取り組みは、地域の女性・高齢者の雇用の創出につながるとともに、交流人口の増加にもつながることから、本県が進めるアグリライフを実践するものであり、これらの取り組みを支援する必要がある。</p>				
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施により次の効果が期待できる。                  新たな雇用者の創出。(9名雇用)                      特産品直売等による所得増。                  (79%増)                      交流人口の増加。(年間 34,000人増加)</li> <li>・投資効率 1.48</li> <li>・用地等地域の協力体制も整っている。</li> </ul>				
(3)環境適合性	<p>資源の有効利用と循環を図るため、事業で整備する施設については、極力木造とし、内装についても木質化に努める。また、施設の周辺は緑化に努めるとともに、景観等へも配慮する。</p>				
(4)優先性	<p>本地域は、播磨科学公園都市に近接しており、近々山陽自動車道と直結する播磨公園都市線が整備される(H15年度春開通予定)など、本地域を取り巻く交通アクセスが飛躍的に向上され、交流人口の増加が期待できる。</p> <p>また、取り組みへの地域の機運は非常に高く、参画と協働の推進のためにも、早期の実施が必要であり、H15年度からの実施が必要である。</p>				